



ふじみ野市



文化財だより 第4号

発行日 令和3年12月1日
発行者 ふじみ野市教育委員会
社会教育課文化財保護係
TEL 049-220-2088
FAX 049-261-5100
bunkazai@city.fujimino.saitama.jp

市指定文化財の紹介 とくしょうじ いたいしとうば 徳性寺の板石塔婆



(天蓋)
阿(あ)
弥(み)
陀(だ)
(蓮座)



弘安四年十一月口日

市内大井に所在する徳性寺は、川越街道沿いに位置しており、今から450年ほど前の室町時代に開かれたと伝わります。一時、寺勢が衰えたものの江戸時代前期に中興しましたが、明治14(1881)年の大井宿の大火により当時の建造物や歴史を記した記録類も消失しました。

現在の本堂は昭和48(1973)年に、庫裏は昭和55(1980)年に再建されたものです。

本尊は、室町時代のものと考えられる阿弥陀三尊像です。また本堂裏手の墓地には元和9(1623)年銘の五輪塔(新井家墓地)があり、歴史の古さを今に伝えています。

板石塔婆(板碑)とは、鎌倉時代から室町時代につくられた板石状の供養塔で、市内では正元元(1259)年のものが最古です(市指定文化財)。

上福岡歴史民俗資料館で常設展示中)。徳性寺には20基以上の板石塔婆があり、弘安4(1281)年銘のこの板石塔婆は、近くの石塔畑と呼ばれる場所から出土したといわれます。弘安4年は2度目の元寇(弘安の役)の年に当たるので、古い時期のものであることがわかります。

この時期の文字資料は非常に少ないため、貴重な資料です。そのため、昭和53年に市の指定文化財となりました。



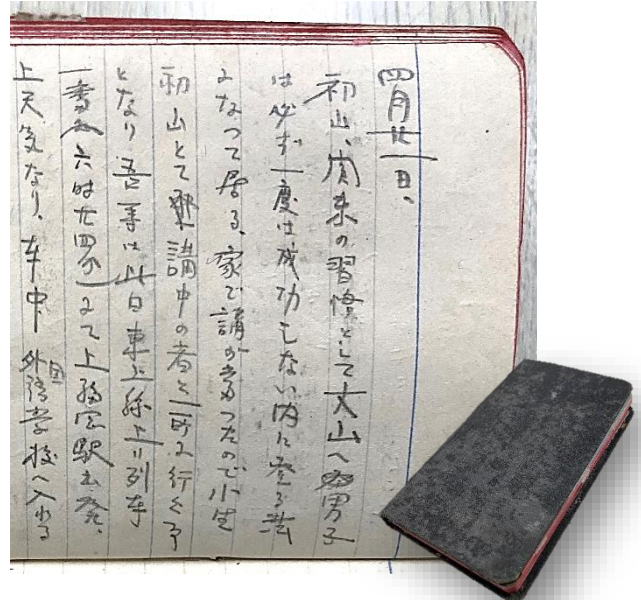
●所在地
大井954-1

※参拝されている方に配慮の上、見学してください。

大山参り 初山 ～旧江戸屋に残された手帳から～

令和2年7月1日に本市に寄附された旧江戸屋の建物内から、黒い表紙の小さな手帳が見つかりました。大正13(1924)年3月から日記やメモとして使っていたようです。大学受験や化学記号なども書かれていることから、手帳の持ち主は、10代後半から20代前半の若者と思われます。

その中で、4月21日から3日間、大山参りに出かけたことが書かれています。(原文は下段をご覧ください)



大山講

神奈川県にある大山は頂上部に雲が起り雨を降らすことから雨乞いや農耕の神として古くから信仰対象とされ、江戸時代中期以降、庶民の間で「大山参り」が盛んになりました。

旅をするにはお金が必要ですが、個人ではお金の用意をするのが難しかったため、地区の仲間で毎年お金を出し合い、くじ引きで寺社に参詣する代表者を決めていました。これを「講(こ

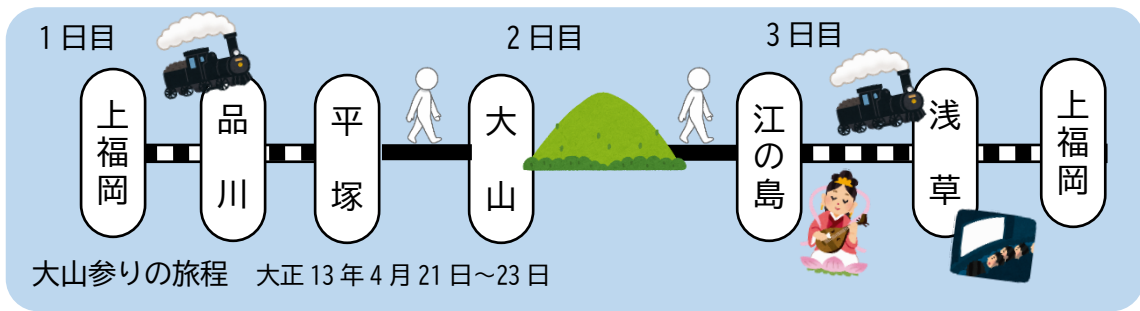
う)」といいました。

手帳の持ち主の若者も、「講が決まった」と書いています。「男子は必ず一度は成功しない内に登る法になっている。」と書かれており、「初山(はつやま)」として初めて大山に行くことになったようです。

※ふじみ野市内では、宝暦4(1754)年には福岡村で大山講が結成されていたことが分かっています。

※旧仮名づかい等は現代仮名づかい等に書き直しています。
 ※四里 約15.7キロメートル
 ※御師(おし) 御祈祷師の略。寺社に所属し、参詣者の祈祷をし、布教者でもありました。江戸時代に庶民の参詣が盛んになると、旅行者としての性格が強くなります。
 ※おはち廻り 山頂の八つの社等を一周するもの。富士山のお鉢めぐりが有名。現在、大山にはないようです。
 ※活動 活動写真の略と思われます。現代の映画のこと。

二里あり。二時間以上かかる。下りは一時間余なり。頂上まで石段なり。70度位の急なる石段もあり。おはち廻り※は山崩れのため出来ざりき。
 江の島廻り。金亀楼一泊。(宿料2円なり)
 四月二十三日
 東京浅草にて活動※を見て帰宅す。
 Kさんの家による。
 ビール五人で二本飲む。夜帰宅す。
 同行者四人。
 K君、U君、T君、Y君



大山への道～平塚から徒歩で大山へ

手帳によると、東上線上福岡駅発の上り一番列車(6:24発)で品川にむかい、平塚で昼食、そこから約16km歩き、午後3時頃、大山の武田御師(おし)の宿坊に到着しています。

翌日は、朝7時の朝食後、すぐに登山に出て、3時間ほどで下山しています。斜度70° (!!)ほどの急な石段もあったと書かれており、よほど急な石段が印象的だったのでしょう。

また、お鉢めぐりが山崩れのため出来なかったことが書かれていますが、この記録が書かれた前年(大正12年・1923年)に関東大震災があり、その2週間後に丹沢・大山周辺で豪雨が発生し、土石流による山崩れが起きていたと思われます。

大山から江の島、浅草へ

大山の男神を参拝した後は、江の島の女神である弁財天をお参りするのが定番でした。

宿泊先は金亀楼。宿泊料は2円(約8,000円※)と書かれています。金亀楼は、江の島にあった3つのお宮の宿坊(宿泊施設)の一つ上之坊が、明治に入り宗教と切り離されて一般向けの旅館となったものです。現在、金亀楼はありませんが、岩本楼、恵比寿楼の2軒が今も営業を続けています。

その後、浅草に立ち寄り活動映画を観て、上福岡に帰ってから軽くビールを飲んで帰宅したようです。

※大正元年の白米10kgの値段は1円78銭

【参考文献】

・第25回特別展「信仰と旅」(上福岡歴史民俗資料館)

四月二十一日

初山、関東の習慣として大山へ男子は必ず一度は成功しない内に登る法になつてゐる。家で講がきまつたので小生初山として講中の者と一緒に行く事となり吾等は此日東上線上市列車一番(六時二十四分)にて上福岡駅出発、上天気なり。車中外国語学校へ入れる〇君と会う。午前八時頃品川着。九時二十三分発車(早川行)十一時半頃、平塚駅着、下車。昼食。平塚より大山町まで徒歩にて四里※あり。

大山町の近くまで自動車、馬車の便あり。徒歩をとる。

大山の武田水穂の御師※着は三時過ぎなり。

四月二十二日

昨夜大雨にて今朝の登山否思はわたれど朝になれば又なき好天気。七時朝食。直ちに登山す。頂上まで

イベントカレンダー - Š12 /ä 3

μ M ù • Ö 7 b ^ Ç E „ „ f f 7 œ % o p j „ • Š y c
 μ P ò Ñ Î ä ¶ _ j ; q £ ” ¶ ~ ô Ç á • Ç E
 › M ù ³ ” ¢ h q Ž Æ ~ ½ • w ÿ ³ Ž c

12

/ä 5 ~ á ~ â	¾ O Æ D 150 © a _ à ö	n { f M Û
	f f N x - H Ñ Ž / ä ' — ¾ ¾ - ê x	μ ð ß a Û
	ž § ^ t - • Ä ¾ / ä g	' μ ð ~] • Ó f M Û
5q5qá â	μ ð ß a Û _ à p M	μ ð ß a Û
	{ - ÿ a á ² f ž ' Ñ £ Ž ç ¥ ö ~ - Ç ... g	' μ ð ~] • Ó f M Û
	á ž ' - Ž ¾ 5 ¥ â	
5q5t ~ á â / ä 5r5r ä i ä	^ ì ï " É " € ö	n { f M Û
5q5ü á i ä / ä 5q 5y ~ á ~ â	f ž ' Ñ £ Ž ç ¥ ö ~ - Ç ... g " € ö	' μ ð ~] • Ó f M Û

1

5x ~ á â / ä 5s 5v ~ á ~ â	μ ð ß a Û p ý è (û î ý	μ ð ß a Û
5q5qá â / ä 5s 5t ~ á ž â	ë , ö f 6 - Ž È - § 6 - z ' g	n { f M Û
5q5ü á â / ä 5s 5t ~ (ž)	ë , ö f 6 - Ž È - § 6 - z ' g	' μ ð ~] • Ó f M Û
5r5y ~ á â	Z ° ... Ç E ¢ Ž É ò + j 5 q f T Ç Ô k	J n à Ä ~

2

5ü T5q5r T5s 5ü á â	= ì ? 6 e - ö j 5 q f T Ç Ô k	n { f M Û
5q5y ~ á â	ï , ò + j 5 r f T Ç Ô k	J n à Ä ~
5r5v ~ á â	5 E › y Ñ 3 5	5 E

3

5x ~ á â / ä 13 ~ á ~ â	f M Û Ö - 5 " € ö ~ 5	' μ ð ~] • Ó f M Û
5q5r ~ á â	μ ð ß a Û _ à p M	μ ð ß a Û
5q5y ~ á â	œ † j 5 r f T Ç Ô k	μ ð ß a Û
5r5v ~ á â	μ ð ß a Û _ à p M	μ ð ß a Û
	p ý è (û î ý s `	
5s t Ê	J n à Ä ~ è (ê [ý j 5 r f T Ç Ô k	J n à Ä ~
5s *	õ ([Ñ £ Š ç ž @ ž % É j 5 s f T Ç Ô k	' μ ð ~] • Ó f M Û

21
 17
 17
 24 25
 10 26
 11
 27 10 3
 29 10 6
 10 5
 10 21

2021 10 1,431
702